

広島県芸北町におけるハチクマの繁殖生態

上野 吉雄¹⁾・河津 功²⁾・小柴 正記³⁾・保井 浩⁴⁾・森川 一夫⁵⁾

¹⁾ 広島県立原養護学校・²⁾ 株式会社ニチエイ・³⁾ 広島市水道局

⁴⁾ ユニアデックス株式会社・⁵⁾ 日本野鳥の会愛媛県支部

The Breeding Ecology of the Oriental honey buzzard (*Pernis ptilorhynchus*) in Geihoku-cho, Hiroshima Prefecture

Yoshio UENO¹⁾, Isao KAWAZU²⁾, Masaki KOSHIBA³⁾, Hiroshi YASUI⁴⁾ and Kazuo MORIKAWA⁵⁾

¹⁾ Hara School for disadvantaged children, 73-1 Hara, Hatsukaichi 738-0031,

²⁾ Nichiei Co. Ltd., 22-8 Saiwai-cho, Naka-ku Hiroshima 730-0844,

³⁾ Bureau of Waterworks Hiroshima City, 9-32 Motomachi, Naka-ku, Hiroshima 730-0011,

⁴⁾ Uniadex Co. Ltd., 1-1-1 Toyosu, Koto-ku, Tokyo 135-8560 and

⁵⁾ Ehimeken-shibu, Wild Bird Society of Japan, 3-1-38 Nakamura, Matsuyama 790-0964

Abstract: The breeding ecology of *Pernis ptilorhynchus* was investigated in Geihoku-cho, Hiroshima prefecture. The nest was built on *Pinus densiflora* at 20 m above ground. For feeding, frogs and vespiarys were used by choice. Especially, frogs were used at the beginning of breeding, while bikes were used in latterly. Nestling left the nest about 40 days after hatching. *P. ptilorhynchus* lays eggs and starts breeding at the beginning of June, and fledglings leave the nest at the end of August.

© 2002 Geihoku-cho Board of Education. All rights reserved.

ハチクマ *Pernis ptilorhynchus* はウスリー・アムール地方, サハリン, モンゴル, 中国河北省, 朝鮮半島, 日本などで繁殖し, 冬は中国南部, 東南アジアなどで越冬する. 国内では北海道と本州に夏鳥として渡来し, 繁殖する (笹川 1996). 低山の広葉樹林に生息し, オオタカなどの古巣を利用して繁殖する. しかし, 巣づくりのさいにあまり森林から出ないので, 巣の発見が難しく, 国内での繁殖に関する報告は数少ない. 阿部 (1991) は山梨県においてハチクマの育雛を観察し, 5種のスズメバチの幼虫や蛹を給餌していることを報告している. また, 静岡県における育雛の観察ではヒナへの給餌内容として, ハチ類とカエル類がほとんどであったという (川田 未発表). これまでに県内では1988年7月に比婆郡内で繁殖が確認され, ヘビやカエルを巣に運んでいたという (日本野鳥の会広島県支部 1998) が, 分布が局地的で繁殖の観察記録はほとんど見当たらず

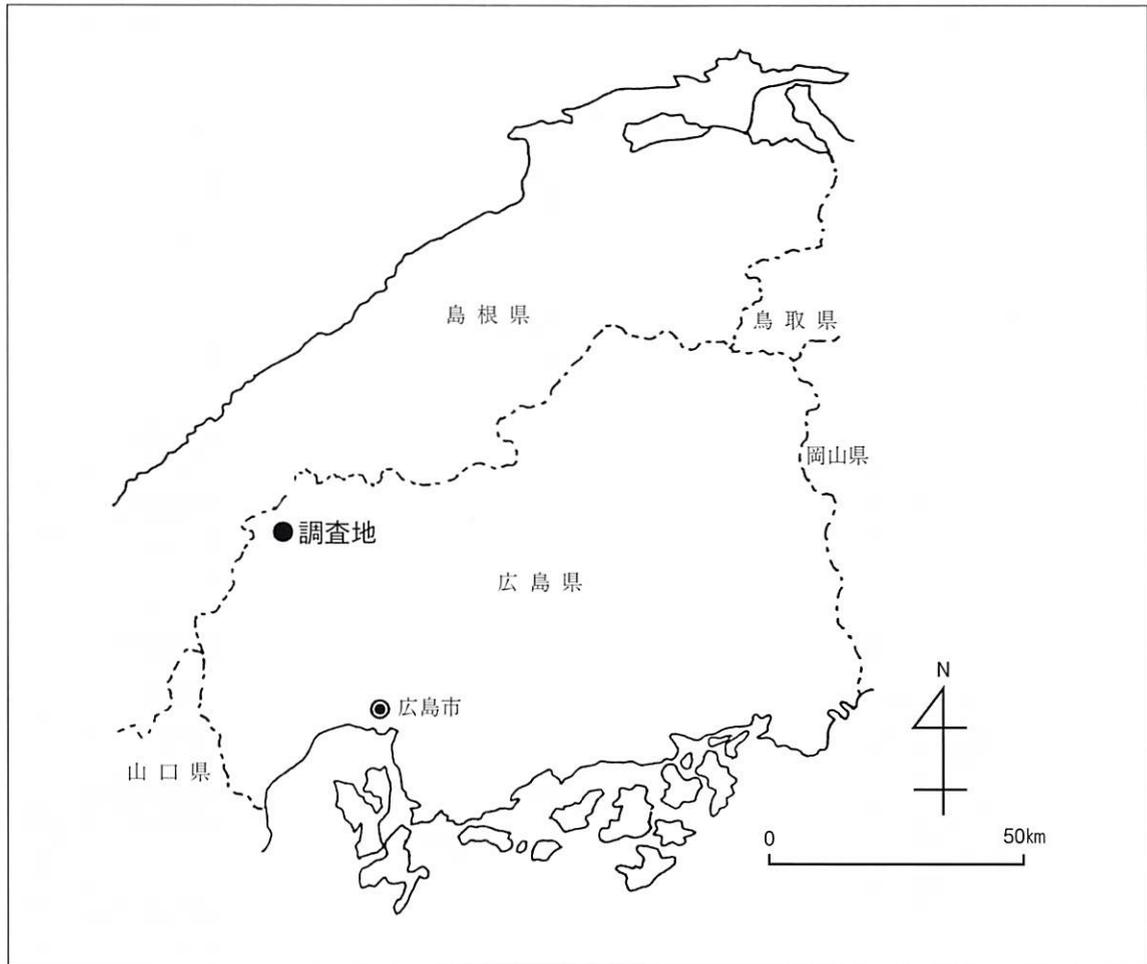


図1 調査地の概略図

ない。

筆者らは2001年に広島県芸北町においてハクマの繁殖を確認し、巣立ちまで継続的に観察したので、その繁殖生態について報告する。

調査地の概要

調査は広島県山県郡芸北町の八幡地区 (132°10' E, 34°41' N, 900m) で行った。この地区は西中国山地の臥竜山 (1,223m) の山麓部にあたり、森林の周辺は農耕地となっている (図1, 図版1-A)。植生は高木および亜高木層にアカマツ *Pinus densiflora*, コナラ *Quercus serrata*, クリ *Castanea crenata*, ナツツバキ *Stewartia pseudo-camellia* などが見られ、林床にはチュウゴクザサ *Sasa veitchii* var. *hirsuta* が優占し、低木層としてオオカメノキ *Viburnum furcatum*, エゴノキ *Styrax japonica* などが見られる (図版1-C)。調査地の年平均気温は10℃前後で、年間降水量は2,400~2,600mmと冷涼多湿な気候である。積雪量は例年1mに達する。

調査方法

育雛の観察は巣から30mの位置にブラインドを設置し、その中から双眼鏡(8倍)によって行った。行動の細かい観察はビデオカメラにより撮影し、あとで解析した。

調査結果

1. 繁殖状況

2001年7月14日8時30分に営巣林の上空でハチクマのディスプレイを確認した。すなわち、オスがピーヨーと鳴きながら急上昇して体を斜めにした状態で止まり、翼を高くかかげて3~4回叩き合わせるホバリング・ディスプレイを盛んに行っていた。オスは下雨覆と体下面の色が白色の淡色型であり、虹彩は暗褐色であった(図版2-A)。

7月20日の13時にハチの巣を運ぶオスを観察し、14時に巣を発見した。巣はアカマツの地上約20mの位置の叉状に枝分かれした部分に造られていた(図版1-B)。巣の直径は約1mの大きさがあり、おそらく、他のタカ類の古巣を利用したものであろう。巣内には2羽のヒナがいた。

7月21日の10時にはメスが抱雛していた。メスは下雨覆と体下面が暗褐色の暗色型であり、虹彩は黄色であった(図版2-B)。12時30分にオスがハチの巣を運んできてヒナに給餌した(図版2-C)。巣の下に落ちていたハチの巣はクロスズメバチのものであった(図版2-F)。15時25分にメスがハチの巣を運んできた。さらに、15時28分にメスが青葉を運んできて巣に敷いた。また巣の近くで盛んにピーヨーと鳴いていた。

7月22日の10時15分にオスがハチの巣を運んできた。11時58分にオスが餌を運んできたが、餌の種類は確認できなかった。14時15分にオスがカエルらしい餌を運んできて、細かくちぎってヒナに与えていた。ヒナはハトくらいの大きさで全身が白色をしており、文献との比較から孵化後約15日齢と推定した(図版3-A)。

7月25日の10時37分にオスが餌を運んできたが、餌の種類は確認できなかった。11時40分にオスがカエルを運んできた(図版2-D)。

7月26日には8時30分にオスが種類不明の餌を、8時35分にオスが種類不明の餌を、8時58分にオスがカエルを、9時35分にオスがカエルを、10時5分にオスがハチの巣を、10時40分にオスが種類不明の餌を、11時にオスが種類不明の餌を、11時2分にメスが種類不明の餌を、11時24分にオスが種類不明の餌を、11時50分にオスが種類不明の餌を運んできた。ヒナは約20日齢になっており、カラスくらいの大きさで黒褐色の羽毛が混じりだしていた(図版3-B)。

7月29日の7時58分にオスがカエルを運んできた。9時56分にオスが餌を運んできたが、餌の種類は確認できなかった。

7月30日には7時30分にオスが、7時40分にオスが、8時3分にオスが、8時55分にオスが、9時19分にメスが、9時47分にオスが、10時9分にオスが、10時43分にオスが、10時55分にオスが、12時10分にオスが種類不明の餌を運んできた。

8月4日には7時25分にオスが種類不明の餌を、8時34分にオスが種類不明の餌を、8時46分

にオスが種類不明の餌を、8時58分にオスがハチの巣を、9時40分にオスがハチの巣を、10時にオスがカエルを、10時33分にオスが種類不明の餌を、11時22分にオスが種類不明の餌を運んできた。ヒナは自力でハチの巣から幼虫を引き出して食べていた。約30日齢になっており、成鳥と同じくらいの大きさで体色も暗褐色になっていた(図版3-C)。

8月6日には8時にオスがハチの巣を、8時17分にオスがカエルを、8時56分にオスがカエルを、9時49分にオスが種類不明の餌を、10時3分にオスがカエルを運んできた(図版2-D)。ヒナはこれまでの白っぽい体色から一羽は下雨覆と体下面の色が白色の淡色型になり、もう1羽は下雨覆と体下面が暗褐色の暗色型になっていた(図版3-D)。

8月9日には2羽のヒナとも巣から出て営巣木の横枝に止まっていた。13時20分にオスが巣にハチの巣を運んでくると2羽のヒナは巣にもどりハチの巣から幼虫を引き出して食べていた。13時35分にオスが種類不明の餌を、13時45分にオスが種類不明の餌を運んできて2羽のヒナはいっしょに餌を食べていた。14時7分にオスが種類不明の餌を運んできた。14時15分に淡色型のヒナが巣から左の枝に移動した。14時45分にオスが種類不明の餌を運んできた。

8月11日には7時47分にオスがハチの巣を、9時18分にオスがハチの巣を、11時34分にオスがハチの巣を、13時5分にオスがハチの巣を、14時30分にオスがハチの巣を運んできた。ヒナは約35日齢になり、巣から出て横枝に止まっていることが多かった(図版3-E)。

8月13日には8時40分にオスがハチの巣を、9時45分にオスがカエルを、11時にオスがハチの巣を、12時10分にオスがハチの巣を運んできた。暗色型のヒナは巣にもどって餌を食べたが、淡色型のヒナは巣にもどらなかった。

8月14日には8時20分にオスが種類不明の餌を、10時8分にオスがトカゲを巣で淡色型のヒナに与えた。10時35分にオスが種類不明の餌を巣で淡色型のヒナに与えた。10時50分にオスが種類不明の餌を運んできたが、ヒナは巣にもどらなかった。11時53分にオスがハチの巣を横枝で淡色型のヒナに与えた。12時25分にオスがハチの巣を淡色型のヒナに巣で与えた。この日は暗色型のヒナは巣にもどってこなかった。ヒナは約40日齢になり枝の上で餌をもらうようになっていた(図版3-F)。

以上の結果について整理すると、7月21日から8月14日までの延べ14日、56時間の観察では、ハチクマの親が巣のヒナに運んできた63回のうち、ハチの巣が19回、カエルが13回、トカゲが1回、種類不明が30回であった。オスが餌を運んできたのは60回で、メスが運んできたのは育雛前期にわずか3回であった。

8月15日にはヒナの姿は巣にもその周辺にも見られず、巣立ったようである。

8月30日には両親と2羽のヒナの4羽がそろって営巣林の上空を飛翔しているのが観察された。

考 察

今回の調査でハチクマの巣を発見したのは7月20日であり、巣立ったのは8月15日であった。その間26日間であったが、巣の発見時にヒナはすでに約15日齢であった。このことから、孵化後約40日でヒナが巣立ったことになる。森岡ほか(1995)によるとハチクマの一般的な孵化後から巣立ちまでの日数は35~45日であるので、本調査地のハチクマの巣立ちまでの日数は平均的なも

のであった。

また、ハチクマの抱卵期間は30～35日であるが（森岡ほか 1995）、本調査地のヒナは7月7日ころ孵化したと推定されるので、それから逆算すると6月5日前後に産卵したと考えられる。

ヒナへの給餌内容はカエルとハチの巣が多かった。ヒナが小さい育雛前半の7月21日から7月30日までの間の延べ6日間の観察ではハチの巣を4回給餌し、育雛後半の8月4日から8月14日までの間の延べ6日間の観察では15回給餌しており、育雛後期のほうがハチの巣を運ぶ割合が高かった。逆に、カエルでは育雛前期では8回給餌し、育雛後期では5回給餌し、育雛前期のほうがカエルを運ぶ割合が高かった。同様の結果は静岡県でも確認されている（森岡ほか 1995）。森岡ほか（1995）によると、ヘビヤトカゲも運んでくるというが、本調査地の観察ではトカゲが1例のみで、ヘビは確認されなかった。また、観察した63回の給餌のうち、オスが60回で、メスがわずか3回であったが、これはメスが主として巣の見張りを担当しているためであろう。オスは直接ヒナに運んできた餌を与え、他のタカ類に見られるように、オスが運んできた餌をメスが受け取ってヒナに与える行動は観察されなかった。

阿部（1991）によると、山梨県におけるハチクマの育雛の観察から、コガタスズメバチ、クロスズメバチ、シダクロスズメバチ、ツヤクロスズメバチ、シロオビオナガスズメバチなどの幼虫や蛹を給餌することが報告されているが、本調査地の観察ではクロスズメバチの巣しか同定できなかった。

今回の観察では、他のタカ類のようにヒナが巣の縁に立って、巣の外に糞を放出する行動は観察されず、ヒナは餌を食べた後その場で透明感のある液状の糞を巣の中にしていた。したがって、営巣木の下が他のタカ類に見られるように、糞で白くなっているという状況ではなかった。

巣立ちにいたる過程では、8月9日ころから巣からでて枝移りするようになり、8月15日には巣とその周辺からヒナが姿を消したので、枝移りを始めて約1週間で巣立った。

謝 辞

本調査を行うにあたり、東八幡原の皆水広武・皆水秀子夫妻には調査等に格別のご協力をいただいた。この場を借りて厚くお礼申し上げる。

摘 要

- 1 2001年7月に広島県芸北町の山林において、ハチクマの巣を発見し、その繁殖生態について若干の知見を得た。
- 2 巣はアカマツの地上約20mの位置の叉状に枝分かれした部分に造られていた。
- 3 育雛期の餌にはカエルとハチの幼虫や蛹が多く利用され、育雛前期にはカエルが育雛後期にはハチの幼虫や蛹の割合が高かった。
- 4 ヒナは2羽おり、孵化後約40日で巣立った。
- 5 本調査から広島県芸北町においてハチクマが産卵するのは6月上旬、育雛に入るのは7月上旬と推定され、巣立ちは8月中旬であった。

参 考 文 献

- 阿部 學 1991 ハチクマの雛への給餌食物 日本鳥学会誌 39:128 日本鳥学会
森岡照明・叶内拓哉・川田 隆・山形則男 1995 日本のワシタカ類 632pp 文一総合出版
日本野鳥の会広島県支部 1998 ひろしま野鳥図鑑 267pp 中国新聞社
笹川昭雄 1996 日本動物大百科・鳥類I 146 平凡社

2001年9月14日受付; 2001年12月19日受理

図 版 1

- | | | |
|---------|----------|------------|
| A: 営巣環境 | 山県郡芸北町八幡 | 2001年8月 |
| B: 営巣木 | 山県郡芸北町八幡 | 2001年8月4日 |
| C: 営巣林 | 山県郡芸北町八幡 | 2001年7月29日 |



図 版 2

A：オス	山県郡芸北町八幡	2001年7月15日
B：メス	山県郡芸北町八幡	2001年7月22日
C：クロスズメバチの巣を運んできたオス	山県郡芸北町八幡	2001年7月21日
D：カエルを運んできたオス	山県郡芸北町八幡	2001年8月6日
E：餌を探すオス	山県郡芸北町八幡	2001年7月24日
F：クロスズメバチの巣	山県郡芸北町八幡	2001年7月29日

图版 2

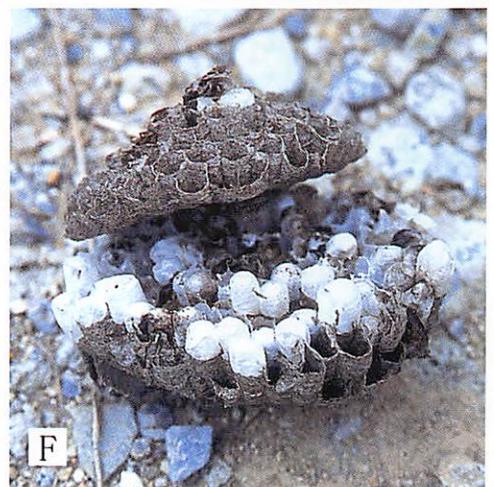


図 版 3

A：日齢約15日のヒナ	山県郡芸北町八幡	2001年7月22日
B：日齢約20日のヒナ	山県郡芸北町八幡	2001年7月26日
C：日齢約30日のヒナ	山県郡芸北町八幡	2001年8月4日
D：日齢約30日のヒナ	山県郡芸北町八幡	2001年8月6日
E：日齢約35日のヒナ	山県郡芸北町八幡	2001年8月11日
F：日齢約40日のヒナ	山県郡芸北町八幡	2001年8月14日

图版 3



図 版 4

A：オスの飛翔	山県郡芸北町八幡	2001年7月26日
B：初列風切が抜け落ちたオス	山県郡芸北町八幡	2001年8月18日
C：秋の渡り	廿日市市極楽寺山	1998年10月3日

图版 4

